

2014年から2018年の千曲川常田地区における 河床標高変化の面的観測

令和2年2月 外山 岬

要旨

目的

河床地形変化の把握は、生態系の維持管理のために重要である。そのために、河川横断測量データを用いた研究は昔から行われている。しかし、河川横断測量データは500mおきに計測されたものであり、局所的な地形変化の把握は難しい。そこで本研究では、ADCP測量（Acoustic Doppler Current Profilers, 超音波多層流向流速計）を用いて、千曲川中流域常田地区において詳細な地形変化を把握する。

方法

2014年から2018年までのADCP測量の観測データを用いる。ADCPで得られた詳細な河床データに基づいて、河床変動の経年変化について考察した。

結論

観測域左岸側の標高は右岸側と比べて、観測期間中、常に高かった。この原因として、左岸側に砂州があり、その地形をADCPで観測したことが考えられる。

観測期間中の河床変動傾向をみると、2014年から2016年では変化がみられず、2016年から2017年では上流部で堆積、2017年から2018年では全域で浸食となっていた。

指導教員 豊田 政史 准教授